



人権擁護委員に手順を教わりながら花を植える児童

人権の花運動を実施 思いやりの心を込めて花植え

町人権擁護委員連絡会（上小路隆男会長）による人権の花運動が6月6日、小屋瀬小学校で行われました。

上小路会長は「花植え活動で命を大切にすることとみんなと仲良くすることを学んでほしい」と活動の意義を説明。その後、児童たちは4種類の花を協力して手植えました。中村蒼羽さん（6年）は「水やりなどを忘れずに行い、命の大切さを思いながら花を育てていきたい」と感想を述べました。



遊歩道の整備を行う高学年の児童とモミの木の観察を行う低学年の児童（円内）

江刈小学校緑の少年団が育樹祭 親子で森林に触れ合う

江刈小学校緑の少年団は5月24日、児童23人とその家族や町森林組合の職員など約60人で育樹祭を行いました。

低学年は森林の散策と昨年植樹したモミの木を観察。身長ほどの高さまで伸びた木をじっくり観察して記録を取っていました。高学年はくわを上手に使い手慣れた動きで遊歩道の整備を行い、汗をにじませていました。児童たちは120年目の学校林に触れ、森林の豊かさを実感し、大切にしていこう気持ちを強めた様子でした。

町内の小学生が「狂言」を鑑賞 伝統文化を身近に感じる

令和7年度青少年劇場は6月16日、葛巻小学校体育館で行われ、町内4小学校の児童約120人が日本の伝統芸能「狂言」を鑑賞しました。

この日は大藏流山本会の狂言師による2つの演目を鑑賞。軽快でユーモア溢れる動きと迫力のあるせりふの数々で児童たちの笑いを誘いました。酒多凛愛さん（江刈小6年）は「初めて見た狂言は時間がたつにつれて面白く感じた。他の伝統文化にも触れてみたい」と伝統文化を身近に感じた様子でした。



狂言における「走る」所作を実際に体験する児童たち

馬淵川源流祈願祭 暮らしを支える源を守る

町観光協会（八木寛一会長）主催の馬淵川源流祈願祭は6月1日、馬淵川源流公園で行われ、関係者約30人が出席しました。

町観光協会など関係者らは、祈願祭を前に草刈り作業や水飲み場の設置など環境整備を実施。当日は雨が降るあいにくの天候でしたが、八木会長は「源泉の自然環境を守り続けていきたい」とあいさつし、参列者らは人々の暮らしを支える源泉を守るため、継続的に環境整備に努めることを再確認しました。



水の恵みに感謝し流域の安全を祈願する参列者と源泉の水を飲む鈴木重男町長（円内）



啓発グッズを手渡し、非行の防止を呼びかける関係者

社会を明るくする運動 非行のない安心安全な社会へ

社会を明るくする運動・人権擁護啓発活動が6月21日、町総合運動公園で行われ、保護司と更生保護女性の会および人権擁護委員ら関係者13人が活動しました。

関係者の皆さんは、同日の青少年健全育成ミニサッカー大会の参加者に、安心安全な社会の実現を呼びかけながら啓発グッズを配布。町更生保護推進協議会副会長の丹内勉さんは「小さな取り組みだが、子どもたちの記憶に残る活動になればうれしい」と活動を振り返りました。



クップに狙いを定めてキャストピンナを投げる参加者

種目の変更後初開催 クップを通じて親睦深める

第41回町民総合体育大会前期競技は6月1日、社会体育館で開催され、各地区の体育振興会から約80人が参加しました。

今年度から幅広い年代が参加しやすいよう種目を変更。前期はクップとグラウンドゴルフの2種目を予定していましたが、雨天のためクップのみを実施しました。規模が縮小された中での開催でも、各チームが綿密な戦略を立てながら白熱の試合を展開し、時折ハイタッチを交わして互いに称え合うなど親睦を深めていました。